

立川美術館

立川美術館は、江戸時代中期に始まった伝統彫刻である立川流の作品や、ユネスコ無形文化遺産「亀崎潮干祭」の精巧な山車模型の展示、さらに実物大の山車に乗車してVR潮干祭体験も出来る美術館です。

また、別館には伊勢湾台風前の亀崎の町並みを再現した亀崎鉄道ジオラマ館や、企画展中は期間限定で明治期の屋敷「作右衛門屋敷」もご覧いただけます。

営業時間 10:00～17:00 水曜休館

入館料：美術館 500円
作右衛門屋敷 500円
(美術館・屋敷共通券 800円)
ジオラマ館 200円
※ジオラマ館は要予約



亀崎潮干祭

亀崎潮干祭は、愛知県半田市亀崎町で毎年5月3・4日に行われる神前神社の祭礼です。

伝えによれば、室町時代に到着した武家らの発案により、荷車に笹を立て幕を張ったものを曳き回したのが起源とされています。

1980年(昭和41年)には「亀崎潮干祭の山車5台」が愛知県の有形民俗文化財に、2006年(平成18年)には「亀崎潮干祭の山車行事」が国の重要無形民俗文化財に指定されました。

そして、2016年(平成28年)12月1日、「山・鉦・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。



望洲楼

安政2年(1855年)創業の望洲楼は衣浦湾を望む傾斜地に建ち、大正天皇即位時に御所に描かれた「亀崎の月」の場所としても知られています。

明治期には、福沢諭吉、柳田国男、田山花袋、竹内栖鳳、西郷従道など、文人墨客や政財界人も訪れました。

明治20年2月、天皇皇后両陛下が近隣の武豊での陸海軍の演習に行幸された際には御食事を担当し、六代目成田新左衛門が手押し車に料理をのせて武豊まで運んだと記されています。

所在地:愛知県半田市亀崎町3-71

TEL:0569-28-1136 FAX:0569-29-4184

営業時間 11:30～22:00(ご予約にて) 不定休
P20台駐車可

HP→<http://www.boshuro.com/>



第三回

亀崎盆梅展

令和5年2月23日(木祝)～2月26日(日) 4日間開催

開館時間 10時～17時(最終入館16時半)

入館料 500円(美術館共通券 800円)

立川美術館分館作右衛門屋敷

愛知県半田市亀崎町6-81

TEL (0569) 29-5897

メール info@tatekawa.org

HP <http://www.tatekawa.org>



立川美術館HP

主催 立川美術館

後援 愛知県観光協会 半田市観光協会 株式会社CAC

盆梅展会場

作右衛門屋敷

間瀬家は、代々海運による材木問屋を営んでいたが、明治になり副業として味噌醤油醸造業を間瀬作右衛門支店朝倉屋として開業した。

その折、住居も醸造蔵に隣接した当地に移住した。

この屋敷は、明治前期に二代目間瀬作右衛門により建てられたもので、奥座敷は昭和7年に本格的数奇屋造りに改築され、昭和12年に永平寺68世「秦 慧昭 禅師」が宿泊された。

令和元年、立川美術館が名古屋市の古川美術館提携館となった事を記念し、立川美術館分館として昔の亀崎の海運醸造を営んだ商家を公開活用する運びとなった。



観覧順路図

■ 部分は非公開

